HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	若年者における失業体験が精神的健康に及ぼす影響 [論文内容及び審査の要旨]
Author(s)	鬼頭, 愛子
Citation	北海道大学. 博士(医学) 甲第12098号
Issue Date	2016-03-24
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/61778
Rights(URL)	http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	theses (doctoral - abstract and summary of review)
Note	配架番号：2202
Additional Information	There are other files related to this item in HUSCAP. Check the above URL.
File Information	Aiko_Kito_review.pdf (審査の要旨)

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称　　博士（医　学）　　氏 名　鬼頭　愛子

	主査	教授	大滝　純司
審査担当者	副査	教授	玉腰　暁子
	副査	教授	久住　一郎
	副査	教授	吉岡　充弘

学 位 論 文 題 名

若年者における失業体験が精神的健康に及ぼす影響
(An exploration of the effects of unemployment experiences on the mental health of young people)

本研究は、労働者をとりまく近年の環境が大きく変化し、様々な問題が生じている中、若年者における失業体験が精神的健康に及ぼす影響について検討することを目的としたものである。まず、前半の研究では、若年失業者を対象として、失業がその精神的健康に与える影響について報告している先行研究の系統的レビューを行い、これまでの研究動向と今後の展望について考察した。それに続く後半の研究では、わが国の若年失業者を対象として、その失業体験が自身の精神的健康に与える影響について、半構造化インタビューとテーマ分析という、質的研究手法を用いて探索的調査研究を実施し、最終的に「精神的健康を低下させるストレスからの解放」「就職のためのレディネスを高める休息期間」「新しい仕事に必要なスキルを高める期間」「生活習慣の変化」4 つテーマを抽出した。

学位論文内容の口頭発表後、副査の久住一郎教授より、インタビュー調査に要した時間の個人差に影響する要因について質問があり、年齢や職歴との関係が述べられた。また、対象者の病歴が結果へ及ぼす影響について質問があり、身体疾患と精神疾患が混在していた実態について説明がなされた。さらに、この研究で得られた知見を一般化することの問題に関する質問に対しては、探索的な目的に合わせたサンプリングであること、また横断的な研究方法による結果であることによる、解析の限界について述べた。副査の吉岡充弘教授からは、先行研究の系統的レビューと調査研究との関連について質問があり、レビューにより知見の不足や限界が存在することが確認された領域を対象に、その後の調査研究を計画した経緯が述べられた。また系統的レビューの成果を発表する意向について質問があり、今後、さらに検討したうえで直して投稿する旨を述べた。系統的レビューにおける結果を、より具体的な数値などにまとめる可能性に関する質問に対しては、研究間の異質性が高く量的な統合が困難であった状況について説明した。副査の玉腰暁子教授からは、対象者の特徴による研究結果への影響に関する質問があり、若年失業者の中でも今回の対象者とは異なる特徴を持つ対象者に関する調査について検討する必要性を述べた。また、

この研究における精神的健康の定義に関する質問があり、WHO の定義を参考にしている旨が説明された。さらに、質問紙による精神的健康の評価におけるバイアスの種類について質問があり、想起バイアスの影響について述べた。最後に、主査の大滝純司教授より半構造化インタビューにおけるインタビュー担当者の訓練とインタビューガイドの作成について質問があり、質的研究の専門家によるインタビューに関する指導の状況と、その内容に関して説明された。また、サンプリングの具体的な実施方法とその背景に関する質問があり、被検者への依頼手続きの実際や、その障害について述べた。さらに、社会構成主義を理論的枠組みにすることによる具体的な効果について質問があり、被検者自身の認識を重視することにより、比較的広く用いられているグラウンデッドセオリーと比較して、異なる視点からの情報が得られたことを述べた。

いずれの研究内容に関する質問に対しても、申請者はその主旨を的確に理解し、文献的考察や、研究活動の具体的な説明を含めつつ、おおむね適切に回答した。また、この研究の持つ限界や今後の課題についても明確に回答し、今後の研究活動の展開に関する自らの考えを示した。

本研究は、これまで明らかにされていなかった、日本における若年者の失業体験が精神的健康に及ぼす影響の一端を、特に失業者の視点から検討したものであり、今後は、より多様な背景の失業者に研究対象を拡大させることにより、さらなる知見が得られることが期待される。

審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士（医学）の学位を授与されるのに充分な資格を有すると判定した。